

国連【世界水の日】記念・水未来会議 2018 ～企業と社会の新しいモデル構築に向けて～

主催：特定非営利活動法人日本水フォーラム
日時：2018年2月27日(火) 14:00～17:00(開場 13:30～)
会場：衆議院第一議員会館 1F 多目的ホール

2015年のCOP21のパリ協定で、世界の潮流は大きく変わりました。

20年前の1997年、COP3京都会議では、先進国の炭素排出量削減の押し付け合いでした。しかし、パリ協定では途上国、新興国そして先進国共に、脱化石燃料は消極的な危機管理ではなく、持続可能な文明への転記の機会であるという認識で一致したのです。

2016年には、国連では2030年を目指して「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」がスタートしています。

現在、世界は、地球規模の環境悪化、資源の制約、気候変動の影響の激化といった課題に直面しています。これらの課題を解決する中心的エンジンは、社会に対して最も大きな影響力を持つ企業です。企業が環境課題に事業を通じて取り組むことが、その企業の持続性にもつながるという認識が、世界の主流になりつつあります (ESG投資の潮流)。

環境問題の大きな分野を占める水問題に取り組んでいる日本水フォーラムは、この新しい潮流を契機とし、2016年初頭、「水未来会議」を開始しました。昨年「水未来会議 2017」では、企業のESG課題に対して取り組む姿勢を、消費者や投資家が評価していく。このような企業と社会の関係こそが、持続可能な社会を実現していく鍵となっていく。このことをメッセージとして発信しました。

それから一年。この間に、経団連が企業行動憲章を改定し、企業が持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う事を宣言するなど、ESGに配慮した経営の推進大きな流れとなりつつあります。

本年の「水未来会議 2018」では、昨年の議論を深化させました。

環境と経済を一体として考え、その相乗効果で新しい企業活動を創造すること。その企業の姿勢を、地域の人々、日本の人々、そして世界の人々が評価し、その企業の持続可能性が担保されていくこと。このようなことを「水未来会議 2018」では共有しました。

そうした企業が持続的に活動していくために、我々は何をすべきか。消費者はSDGsに向けた企業活動を評価するだけでなく参画すること。そして、こうした新しいモデルを国内外で広げ、社会の中心的な価値観としていくこと。これらが、持続可能な社会の実現の推進力となっていきます。

水未来会議では、今後も、社会の新しいあり方を模索していくことが合意されました。

水分野の諸課題は、環境・経済・社会と複雑に絡み合っています。水関連のSDGs達成に向けた企業と社会との新しい関係。その新しいモデルを水分野からも発信していくことが、私たちの未来を明るいものにしていくと信じています。水の観点から、持続可能な社会の構築に向けた提言に、水未来会議は今後も取り組んでいきます。

以上